

リスクを察知しその芽を摘み取る。 ミルテル検査は 予防医療(先制医療)の最先端です。



あたまと体のヘルスケア・クリニック神田

院長/医学博士 池田 秀敏 先生

1981年東北大学医学部卒業。同年から、国立水戸病院外科系職研修医。1987年、東北大学大学院医科系卒業、スイス連邦チューリッヒ大学客員研究員、米国ハーバード大学客員研究員を経て、1988年、東北大学助手(脳研脳神経外科教室)、講師、同学部脳神経外科医局長を歴任。2014年から東京クリニックアンチエイジング科学診療センター長兼任。2019年から一般社団法人国際医療ネットワーク推進機構理事長を務める。2019年11月、あたまと体のヘルスケア・クリニック神田設立、院長。

理事長・院長

医学博士

日本脳神経外科専門医・指導医

日本内分泌代謝内科専門医・指導医

日本抗加齢学会専門医

厚生労働省産業界

文科省外国人医師研修指導医

症状が出る前の「先制医療」で、健康寿命の増進を。

—— あたまと体のヘルスケア・クリニック神田様の診療内容を教えてくださいませんか。

私は下垂体疾患の手術が専門で、2500例ほどの執刀経験と世界で5本の指に入るほどの手術例数と手術成績があります。このように、世界でもトップレベルの実績を残しましたが、達成感がある一方で外科的手術では克服できない、不良な予後を抱える患者さんが多くいらっしゃることに不満がありました。山に例えるならば、最高峰の頂上に辿り着いた時に、思い描いていたのとは違った景色が広がっていたのです。それならば、何か症状が出てしまう前に先制攻撃して、その芽を摘み取ってしまうのが最善の治療法と考えました。そうすれば辛い闘病は必要なく、健康寿命は伸びるでしょう。当院ではそれを「先制医療」と呼んで、実践しています。

—— 先制医療で大事にされていることはなんでしょうか？

例えば、何年後に必ず病気になると筋道がわかっている方がいます。「先制医療」とは、その方の健康状態を元に戻してあげることです。病気には多種のがんや認知症など、様々なものがありますが、いずれにせよ現状を解明するためには検査の精度が重要だと考えています。ところが普通の保険診療では、この質がなかなか保てない。身近な例を挙げれば、メタボ検診などは、高脂血症に対してコレステロールと中性脂肪と悪玉・善玉コレステロールを調べています。実はLDL(悪玉コレステロール)は心血管リスクなどとはあまり相関性がないというのが最近のデータです。従って、検診では意味のない検査をしていることになります。本当に悪影響を及ぼしかねないのは、LDLが活性酸素によって酸化されて検出する値(LOX index)であって、当院では自由診療でこれを調べています。

また、MRIを例にすれば、磁場の強さによって鮮明度が変わることは一般にはほとんど知られていません。当院では画像検査の品質を維持するために、最高レベルのMRIを多数持つ画像専門のクリニックとオンラインで繋がり、協力体制を敷いています。患者さんは診断結果と画像をCDに入れて、当院に来て診断を受けます。鮮明な画像と正確な診断で、互いに良い部分を保管しあっている関係です。いち早く正確な体の状況を知ること、疾病回避へのアドバイスにつなげています。

ミルテル検査で正確なリスクを把握。万全のアフタフォローにつなぐ。

—— 病気を未然に防ぐ意味で、工夫されていることはありますか？

当院では初めて来られた方には、まず100項目の間診票を書いていただきます。これは体全体にわたる症状が部位別に書いてあり、全てにチェックいただくことで、そこに共通する疾患が浮かんできます。画像検査の際には、ある程度のあたりをつけて入念に調べて、異常が見られれば病気を割り出せるようにアクセスしていきます。こうした方法のため、ご自身でも思いも寄らない症状から病気が見つかることがあります。先日「成人成長ホルモン分泌不全症」という難病指定されている病気を数例発見しました。下垂体に起因する症状は「めまい」や「頭痛」などが一般的ですが、実は疲れやすい、お腹が出てきた、髪の毛が抜けやすいといったものも、関係があります。100項目もの質問を羅列してあるのは、こうした細かな見落としを避ける目的もあります。10ページあるので、皆さん30分ほどかけて真剣に答えていらっしゃいます。

—— ミルテル検査を導入されたのは、自然な流れですね。

マイクロRNAによるがん診断は、日本が先行していることもあって注目していました。がんセンターに所属されている先生の講演を聞いて「これは将来役立つな」とも感じました。当院も、この検査がサービス開始するだろうというタイミングを見計らって開院しましたが、蓋を開けてみれば広島大学とミルテルさんの方が進んでいましたね。

ミルテル検査は2013年頃から以前の職場で導入させてもらい、もちろん当院でも継続利用しています。現在の「ミアテストプラチナ」は精度も高まっていますし、何より個別のリスク値が出る点が素晴らしいと思います。しかも、マイクロRNAだけでなく小さなRNAも全て検出対象にしています。理論的に考えて、多種類のRNAを組み合わせるほど正確なリスクが出ると考えられるので、その着眼点も良いですね。

—— ミルテル検査にはどのようなことを期待されていますか。

「非侵襲的に、小さいうちに、感度良く、血液から」がんがわかる可能性があることは、大きな期待感があります。これまで膵臓がんなどは、大きくならなければ対処できず、見つかった時には余命いくばくかという状況でした。それが早めに見つかれば、あらゆる対策ができます。

せっかく最新の検査でリスクを早く見つけたのに、注意深くフォローアップしましょうでは全く時代遅れです。当院ではサプリメントを始め、独自に開発した方法で膵臓がんのリスクをさらに下げることを実証し、報告してまいりました。これは自分の免疫力、抵抗力を高めることで、がん細胞自体を消してしまおうという治療方針とも合致しています。

—— 検査の導入効果を感じたエピソードはありますか。

すでに当院では20~30名ほどが受検されていて、全てのがん種のリスクがわかっています。PET検査を受けられていた方も同じような費用なら、ミルテル検査に移行されました。互いに長い信頼関係があつてのことですが、比較的皆さんスムーズにミルテル検査に移られています。

反面、検査を勧める側は検査の意義や感度、精度を知っている人でなければならないと思います。理想を言えば、臨床だけでなく基礎の分子生物学をよく知った人です。単に「こういう新しい検査があるよ」では、説得力がないですし、結果的に「がんのリスクがある」と出たときに、受けた方がただ怯えるだけでかわいそうです。

存在感を発揮し、次世代の医療に貢献する検診システムへ。

—— 検査結果の説明で気をつけていることを教えてください。

検査の前には、体を調べる方法は色々ありますが、被曝もせず、感度もよく、非侵襲的で簡単ですよとお話しています。そして検査後は、何もなければ「よかったね」で済みますが、あつた場合には結果の意味するところを丁寧に説明します。そして、次に何をすべきかが大切です。画像を撮影するのか、違った方法の検査に移行するのか、全てこちらでフォローします。具体的にはまず画像は撮りますが、そこで何も出なければリスクを下げる方策を提案します。主にサプリメントの処方です。これは3ヶ月間飲むだけで、その方本来の免疫力をアップさせて、抑制系のマイクロRNAを活性化させることができます。飲んでいただいた方は今のところ2年間以上、リスクは上がらずに保たれています。リスク要因は一度リセットされて平らになれば、そこからまた積み上がっていくまでに時間がかかるのだと思います。

ただし、これはミルテル検査はもちろん、どんな検査にも言えることですが「100%でない」ことはご理解頂かなければなりません。

—— 特異なケースなどがあつたのでしょうか？

「ミアテストプラチナ」の前の「プレミアム」で胃がんの検査をして、がんのリスクはないと結果が出た後に、胃がんになつた方がいます。その人は多発性で2つ胃がんができていました。体質的にできやすい方なのか、かなり稀なケースだと理解しています。今は両方とも手術が済んで元気になっておられますが、がんにはそういうこともあります。

また、サプリメントで膵臓がんのリスクを下げる方策が、うまく効かなかつた症例も1例あります。その方は、当院が厚生労働省から認可を受けた、NK細胞療法を3クールやられて、ひと月ほどで完全に膵臓がんが消えてしまいました。これはミルテルさんのデータ上でも確認しています。ただ単に早期発見という側面だけでなく、長期的なリスクのフォローという面でもミルテル検査は有効だと考えています。

—— 今後のミルテル検査への期待をお聞かせください。

PCR検査もだいぶ安価になってきたので、2回目以降はディスカウントがあるなど、幅を持たせた特典があればと思います。ランニングコストの問題もあるでしょうが、ミアテストプラチナが1項目から可能、と柔軟になれば良いですね。そうして受検の垣根を下げて、形になる前段階でまずがんを見つける。そのレベルであれば、人間本来の免疫力を高める作戦が有効なので、当院であればサプリメントを駆使して消したり、リスクを下げたりする先制医療を推進したいです。

先ほども言ったように、日本の検診システムは完璧ではありません。高齢化、医療費の高騰、健康志向の高まりといった中で、ミルテル検査はますます存在感が増していかなければおかしいですし、さらにその裾野を広げて欲しいです。

あたまと体のヘルスケア・クリニック神田

脳神経疾患と独自の先制医療を専門としたクリニック。保険診療である脳外科診療では、頭痛をはじめとする多様な症状に対して、洞察力を活かした問診や保険診療ではできない検査を駆使し、病因を解明。また、先制医療では採血サンプルを基に、アルツハイマーや14種のがんの早期発見を行う。診断後は、症状の改善、病気の回避、若返りのための具体的な生活習慣の見直し、栄養指導サポートの徹底により、未永い健康の維持を目指している。

